



1.2. 宍戸さん（写真右）の案内のもと、阿武隈川の堤防から被災地をご視察される秋篠宮皇嗣殿下と紀子妃殿下 / 3. 詰めかけた報道陣からの取材に応える宍戸さん

「秋篠宮皇嗣殿下がご来訪」

秋篠宮皇嗣殿下は、公益社団法人大日本農会から表彰を受けた梁川町五十沢地区の農家・宍戸里司さん、初子さんご夫妻が台風19号の被害にあったことをご心配され、大日本農会総裁として、1月28日に紀子妃殿下とともにお見舞いにご来訪されました。秋篠宮ご夫妻は被害概要などの説明を受けた後、阿武隈川堤防から浸水被害を受けた農地を視察され、雨が降りしきる中、傘を差して被害状況を尋ねていました。

市長コラム



第19回 ふれあうことの大切さ

皆さん、「ふるさとティーチャリングプロジェクト」をご存知ですか？ 名前だけは聞いたことあるよとか、もしかしたら一緒に活動したよという人もいるかもしれません。この機会にぜひ覚えてください。

このプロジェクトは、首都圏の大学生が伊達市の各地域を訪ねて、子どもたちと勉強したり遊んだり（寺子屋活動）、農作業の手伝いやお祭りに参加したり（地域交流活動）して、その体験を自らの言葉で広く発信する取り組みです。今年で5年目となり、これまで活動回数55回、大学生延べ587名、小中学生延べ3,028名が参加しています。

先日、今回伊達市に来ている大学生の皆さんと意見交換をしました。－伊達市の印象は－「食べ物が美味しい、秋の紅葉がきれい、お母さんが振る舞ってくれた“いか人参”や“ひきなおり”がおいしかった」。－伊達市の子どもたちの印象は－「笑顔がとても素晴らしい、みんな素直で心から楽しんでくれる」。そしてとても印象に残った言葉は、「ふるさとってなんだろうと考えた時に、ふとした時に知り合った人の顔や食べ物を思い出すこと」と話してくれました。「このプロジェクトに参加した経験から、自分の将来について考えることができた」とも言っていました。

SNSなどの進展により、直接顔を合わせたり言葉として発しなくても情報のやり取りができる時代となっていますが、人が心のつながりを強くするのはやはり直に“ふれあうこと”なのだと思っていました。

最後に、お世話になったお兄さんお姉さんに宛てた小学1年生の感想文を紹介します。「とおいけど ころのなかはともだちだよ みんなのなまえはわすれないから わたしたちのなまえわすれないでね。」

須田博行

手話でコミュニケーション vol.22

今月の手話

「卒業、修了」

卒業証書を受け取り、礼をする場面をイメージしましょう。

①



②



礼をしながら、手を上に動かします。